

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

こもればの家

日付 平成 21年 3月 12日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

平成20年度の終わり頃、ホームを訪問して当時の統括管理者(現在の母体法人役員)からグループホームの開設からの変遷とその背景について話を聞いた際、この母体法人がこの地域で展開する高齢者介護事業についての思いを話してもらった。この地域の中で高齢者が安心して暮らせる基盤の整備と介護職員が働きかける多様化した職場を作るという構想であり、素晴らしい法人の介護事業の展開に期待した。

今回訪問した時に、それらの構想が現実の姿となり、小規模多機能ホームが開設していた。同時にグループホームの職員も多少異動していたが、大きく変わったのが24~25歳の若い男性管理者が誕生し、8か月経過した姿に接することができた。このホームに来て4年目を迎えている人達なので、このホームでの介護職としては慣れているし、利用者との馴染みもあるので何も問題もない。

両ユニットは平屋建て建物を玄関を挟んで左右に2分化されている。その前面に広いウッドデッキと庭があり、外側で両ユニットの利用者は一緒に交流できる。今回はその前面に小規模多機能ホームが開設したことから、このウッドデッキと庭を中心にして、どのホーム、ユニットからも、その広場で交わることが出来るようになった。そして職員の子供が保育できるようキッズルームもあり、高齢者の中に子供と一緒に過ごせる時間も持つことが出来るようになった。当日2つのユニットから利用者が庭で椅子に座って談笑していたら、そこに子供2人が合流して、シャボン玉を吹いてくれ、利用者はシャボン玉を浴びながら、大声を出してはしゃぐ。前の小規模多機能ホームの掃き出し窓を開けて、そこの利用者が手を振りながら大声で話しかけてくる。3つのホームの利用者と子供達で話しが飛び交い、笑いが声高らかに飛び出し、職員も交えてすごい交流の場となった。歩ける人も車椅子の人も皆一緒、平等である。春になったら、きっと素晴らしい楽しい生活の場が展開されそうだ。幼児、子供、孫や嫁や息子のような職員達と利用者の素晴らしい世界が広がりそうだ。

利用者はホーム内で自分の持っている能力や技能を生かして手作りのオモチャや絵やちぎり絵作り、習字を書いて“自分らしい生活”を実現する。調理の手伝いや掃除、洗濯物の片付けをして人の役に立てる“人間らしい生活”が実現できるよう、できるだけ多くの人に参加して、このホームでの生活をもっと豊かにすることも新しい管理者には是非してもらいたいと思う。そして利用者同士でもよく語り合っているのも、コミュニケーションの機会が失われないよう人間全体の機能をいつまでも保てるよう、介護計画を単純且つ効果的な観点から作って、日頃から精神的あるいは身体的機能の維持が出来るよう努めてもらいたいと思う。

特に改善の余地があると思われる点

オリジナルの手作りオモチャ作りに励んでいる利用者がある。又、前にも手作りの好きな封筒づくりの人もいた。もう少し利用者に何か手作りしたり、描いたり、筆を使って作品を作るなど、日頃いつも出来るその人らしい作品等づくりのきっかけを投げかける習慣は出来ないものだろうか。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 運営理念については当初立案設定したものが生きているので問題はない。この法人の“地域と共に暮らす”という理念通りに事業展開が着実にできている。</p> <p>2. 全体的に見て…: 理念を日々のケアの現場で実現するために、ユニット毎で毎月のように目標を掲げている。南館の例をみると、H20年3～4月「自分の言葉使いをもう一度振り返ってみよう」、4～6月「さん付けで声かけをする」、7～9月「チェック表を確認しよう」、9～12月「体重の減量をしよう」等とある。利用者に対する職員の認知症に関する心がけでもある。このように月あるいは一定期間で職員皆で申し合わせた小さな目標を一つひとつ積み重ねることにより、認知症ケアの大きな効果につながっていくだろう。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 木材をふんだんに使い、ゆとりのある広さを持ち、利用者はゆったりと楽しい生活ができる。居室もそれぞれの人が自分なりの個性あふれる部屋づくりをしている。外部空間は広いベランダと庭があり、利用者は交流の場ができて、これらの空間を活用して、それぞれの利用者がしっかりと生活動線を描いている。</p> <p>2. 全体的に見て…: 国道2号線沿いにある敷地に新しく出現した小規模多機能ホームとこのグループホームを主体に地域密着型サービス事業所や居宅介護事業所を含めて、この里庄町の地域全体が高齢者の生活の居住動線が展開できるようになった。この地域の福祉介護に本格的に貢献していく事業となるだろう。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にしたい整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 利用者として接する心持ちとして、職員がもっとゆっくりとした時間をとって、職員がコミュニケーションをしていきたいと考えている。認知症ケアの真髄として、ゆっくりと話しをして、気持ちの表出までじっくり待つ必要がある。職員全員で習慣づけて欲しい。もう一つ利用者の服用している薬の内容をしっかりと把握して支援しようと考えている。当たり前のことであるが、薬の内容を理解することにより、利用者の状況をしっかりと知ることになり、アセスメントの貴重な情報の収集である。自主評価の各項目を一つひとつよく理解して、職員の業務の質の向上につないでいくことは大切なことだと思う。</p> <p>2. 全体的に見て…: ホームに入所した時、精神的に追い詰められ不穏な行動をしていた人の気持ちをしっかりと受け止めてあげ、職員の心温かい気持ちとケアに接し、安心・満足・信頼の関係づくりができ、表情豊かに元気な生活ができるようになった利用者が多い。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 地域での活動を積極的に進めてきたが、もう一度地域の人達との連携を進めていき、高齢者の生活をしっかりと支えていきたい。そしてホームへの協力も得たいと、もう一度考えてみたいと考えている。高齢者の生活支援基盤ができたこの時点で、もう一度考えて実行していこうとする職員の意気込みは素晴らしいと感動した。</p> <p>2. 全体的に見て…: 若い管理者2人が職員と一緒に利用者を支えていくことになった。それぞれの管理者は「利用者として向き合い、一人ひとりの気持ちや希望を把握している。管理者として職員をまとめねばならない。意見がバラバラにならないようまとめ、職員全員が楽しみながら仕事をすれば、利用者にも職員の気持ちが伝わり、楽しい生活を送ってくれると思う。もっと色々な面で知識と技術を身につけ、皆から信頼関係を築かねばならない」と新たな決意を持っている。</p>		